

---

# 怪盗の正体

服部大好き

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

怪盗の正体

### 【Nコード】

N0382A

### 【作者名】

服部大好き

### 【あらすじ】

ある夜の事だった．．．なんとある探偵にある怪盗の正体がばれた！？そのあとの二人の話。

ある夜の事．．．

「やったぜ！また盗み成功！．．．．．ってこれ違う．．．」  
その怪盗は怪盗キッドと言つ名でとうつていた、ある理由で怪盗として宝石などを盗んでいるのだ。

その正体は、『黒羽快斗』と言つ少年なのだが．．．誰にも知られていないのだ。

「まっ、そんなすぐに見つかるはずないか．．．」  
怪盗キッドは、暗い誰も人の通らないところで姿をもとに戻した、『黒羽快斗』の姿に．．．

~~~~~  
「ふ〜はよ家にかえらなあかな．．．」

この少年は西で有名な高校生探偵『服部平次』だ。  
服部平次は、コンビニで飲み物を買つて帰っている所なのだ。

「ん？なんやあの白い．．．あれ、怪盗キッド？」  
そう、この少年は怪盗キッドが降りてきたところを目撃したのだ。  
(そつや、あいつの正体あばいたろ！)

そして怪盗キッドはごく普通の少年になったのだ。

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

「そつだ．．．青子に電話しねと．．．」

(なんやあいつ．．．携帯電話だして誰かに電話しよつた。  
プルルルップルルル)

「もしもし？青子、俺快．．．」

「コラ〜！！！！バ快斗〜どこ行ってたの！」

「だから、大阪にマジックショ．．．」

「え〜！大阪！？そんなの青子聞いてないよ！」

「そッそッだっただかな？えつととりあえず明後日までには帰るから  
そんじゃー！！」

「ちょ！快．．．」

プ．プ．プ．．．

（なんやアイツにも幼馴染でもいるんか？）

そう思ったとき、キッド（快斗）にスキができたのだった。

（そうや、いまとりあえず捕まえな！！）

そんなことを探偵が思っているとはまったく想像のつかない快斗は  
幼馴染のことを思っていた。

（ハ〜．．．青子のやつ怒ってるだろうなっ！！）

幼馴染のことを思っているといきなり背後から腕を抑えられたのだ。

「はっはなせ．．．」

「お前が逃げても顔はわかってるんや！お前は指名手配やで！！」

（誰なんだ．．．こいつ、なんか聞いたことあるな．．．）

と、快斗が思い自分の腕をつかんでいる人の顔を見てみると．．．  
見たほうも見られたほうもどちらも叫んだのだ。

「「へっ？」」

「お、お前工藤？」

「お、お前エッグの時にいた探偵？」

そしてどちらともその問いに答えたのだ（腕はつかまれたままです）

「ちがうって、俺は工藤新一じゃない！黒羽快とっ．．．」

「そやで、俺はあの時にいた服部平．．．ん？お前．．．」  
怪盗キッドは自分の本名まで言ってしまったのだ。

「ほ〜ん、お前『黒羽快斗』ちゆうんか〜」

してやったりと言わんばかりの顔で問い詰めている。

「こっこれは私の仮の名前ですよ、名探偵？」

「ふ〜ん、それやったらさっきお前がかけたところかけてもええんかな〜」

「えっ!？」

「さっき瞬間的にお前の携帯とつて着信履歴見させてもらったは、東京の青子つちゆう姉ちゃんや、すぐに見つかると思うで〜」

平次は人を揺さぶるのがうまいのだろうか．．．

「うっ．．．わかったよ．．．警察に突き出すのか？」

「ちやうちやう、やっぱ『怪盗キッド』の時に捕まえないみないやろ？工藤にもだまっといたるは」

「工藤って．．．あのちっこい【がき】のことかなんでそうなったのか〜とかは知ってるから話さなくてもいいぜ。」

「それやったら今日俺んち泊まるか？」

「もちろん！よろしくな．．．服部？」

「こっちこそよろしゅうな．．．黒羽？」

こっして最強(?)の親友になった二人だった。

(後書き)

作者より

平次「なんか作者よりの横に つけてるし・・・」

快斗「気合入りすぎじゃねーか?」

新一「俺でてね〜、コナンとしてもでてね〜・・・作者!お前服部  
毎回出してるだろ!!」

服部大好き「うっ・・・いいじゃんか平次がキャラの中で一番好き  
なんだし・・・」

快「まあまあ、許してあげようよしん・い・ち」

新「快斗〜!(ギロツ)」

快(新一は冗談通じないんだよな)

大「あ、あの〜そろそろ・・・」

平「みんな、感想書いてな〜」

新「楽しみにまってるぜ!!」

快(俺セリフなし!?)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0382a/>

---

怪盗の正体

2010年12月10日22時01分発行